学報

SEIREI CHRISTOPHER UNIVERSITY REPORT

2011.12.20 Vol.38

Contents

特色ある授業の紹介「専門職連携」／聖書のことば P1-2
ホームカミングデー・聖灯祭 P3-4
就職支援 P5
国家試験対策 P6
保健福祉実践開発研究センター P7-8
私の教育・研究 P9
研究助成 P10
聖隷学園だより P11-12
災害対策／後援会から P13
お知らせ P14
クリストファーニュース／学友会から ..... 裏表紙

保健医療福祉の総合大学
聖隷クリストファー大学

看護学部
社会福祉学部
リハビリテーション学部

3学部合同 専門職連携教育プログラム

本学ではIPW※（専門職連携協働）の必要性を学ぶために、2008年度より専門職連携教育プログラムをスタートさせました。看護、社会福祉、リハビリテーションの3学部の学生が机を並べて共に学び、それぞれの専門性を尊重し、相互理解を深めることにより、対人援助職として連携しながら協働できる人材を育成することを目的としています。

今年度、「専門職連携の基礎」は9月20日と22日の2日間、「専門職連携演習」は9月12～15日の4日間の日程で行いました。その様子を紹介します。

科目	専門職連携の基礎（1年次生：必修科目）	専門職連携演習（4年次生：選択科目）
目的	個々の学生たちが対人援助における他職種の連携・協働の必要性を理解し、多角的なものの見方ができるようになること。	これまでの学習や経験を再確認し活用して、他学部学生と共に事例検討を行い、対人援助における専門職連携・協働の実際を体験し、その意義と実践方法について理解を深めること。

※IPWとは：InterProfessional Workの略で、その意味は「複数の領域の専門職者が各々の技術と役割をもとに、共通の目標を目指す協働」のことです。（CAIPE：英国専門職連携教育推進センターの定義）

■専門職連携の基礎

1年次生：必修科目

地域における連携・協働の取り組みをまとめたビデオ鑑賞のほか、4年次生による「学部での学び」や「実習を振り返って」をテーマとしたプレゼンテーション、教員による専門職の仕事と役割、連携・協働についてのプレゼンテーションとシンポジウム形式の質疑応答を聞くなかで、数年後や将来の自分の姿を思い浮かべ、また現場について学びました。これらをもとに、3学部混成の6名程度の小グループによる「専門職連携とは」をテーマとしたディスカッションを行い、2日目の最後にはグループ発表を行いました。

グループディスカッション

4年次生のプレゼンテーション

他学部の先生のお話が聞ける貴重な機会

科目担当教員の声

「教員や先輩の話を聞くことで専門職連携の大切さが理解でき、それを学ぶ必要性など今後の動機付けが高まったようです。また3学部混成による少人数のグループワークを行うなかで、改めて自分自身の学部や学び、その特徴や意味を考える機会になっていました。お互いの理解を深め、自らを顧みる大変貴重な時間となりました。」

Voice

各グループの発表

シリーズ

聖書の言葉

「長谷川保と聖書」

長谷川保先生が愛用した聖書には、余白を埋め尽くす書き込みがある。

「わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」

（ヨハネによる福音書七・三八）

川の水は何千年もとうとうと流れています。絶えることがありません。その川の水がなければ、人間は生きてゆけません。その川の水をたとえに用いて、キリストは将来「生きた水」を人間に送るとおっしゃいました。

「生きた水」とは何のことでしょうか。この聖句の続きに「聖霊」のことだと書いてありますので、キリストが私たちに聖霊を送ってくださり、聖霊が私たちを元気づけてくださるという意味になります。

聖隷社の活動を始めた人々は、「生きた水」を毎日飲んでいました。「生きた水」には「いのち」があったとも書いてあります。神から与えられる聖霊を受けると生き生きとした力が与えられます。この力は人間の内にはないもので、神から与えられるものです。あなたもこの「生ける水」をお飲みになられるように。聖隷クリストファー大学のすべてが、このすばらしい力に満たされ祝福されますように。

聖隷学園宗教主任　鈴木 崇巨

■専門職連携演習

4年次生：選択科目

今年度 初開講！

【第1日目　学びの考察】

各学部から総勢110名の学生が集まりました。午前には、各学部より代表の学生によるプレゼンテーションが行われました。「これまでに学んできた資格に関わる学び」「臨床実習を通して学んだこと、そこで感じ、考えたこと」「私が考える専門職連携とは」をテーマとし、これまで互いが学び・感じてきたことを学部の壁を超えて共有する場となりました。午後には、小グループに分かれ、これらのテーマを話題とした自己紹介を行いました。

小グループでの自己紹介

代表学生によるプレゼンテーション

【第2日目　事例の設定】

前日の小グループ2つを合わせて15～16名の大グループ7つに編成をしました。まずは他己紹介（自分を紹介するのではなく他の人を紹介）を行い、互いの緊張をほぐしました。午後からは具体的に発表の準備に入りました。「理想的な専門職連携協働を表す事例」を作成することがテーマです。これまでの自己紹介で聞いた事例などを参考にし、事例を物語として捉えて大まかな筋書きを作成していきました。

2日目の最後には「中間発表」として、おおよその事例についてそれぞれのグループが発表をしました。

他己紹介はどのグループも笑顔

【第3日目　事例の完成】

前日の中間発表を受けて各グループに出された課題、問題点に対し話し合いと再検討を行いました。各専門職の意識や考え方の違い、認識のギャップ、時には意見のぶつかり合いなど様々な問題が出る中、メンバー同士で話し合いを重ね、「自分たちの理想とする専門職連携のあり方とは何か」を導き出していきました。

限られた時間の中での真剣な話し合い

【第4日目　プレゼンテーション】

いよいよ最終日、1グループ発表20分＋質疑応答10分の設定で行いました。ロールプレイを用いた発表では、学生が患者さんやその家族、自らの学部に関する専門職の役などを演じました。事例の細かい説明や演技で補えない情報はパワーポイントや模造紙を用いて発表をしました。発表後の質疑応答ではするどい質問もあり、グループ内で緊急会議をする姿も見られました。他のグループの発表や自分の所属するグループの発表に対するコメントを聞く中で、専門職連携のあり方に対する考えをさらに深めていきました。

事例の細かな点は模造紙で発表

ロールプレイを用いた発表

科目担当教員の声

「専門職連携における各自の役割および連携の必要性と重要性が再確認でき、患者（対象者）の視点および多面的な視点から専門職の役割と意義を考え、実践することができていました。また学生自身の課題発見や、卒業後の自身の専門性と連携協働に向けた意識付けも高まったようです。教員としても、学生のこの4年間での著しい成長を感じ取ることができました。」

Voice

科目担当の先生方と

SEIREI Christopher

Event Report!

Report 1 ホームカミングデー

ウェルカムセレモニー

小島学長による
歓迎のあいさつ

鈴木聿代実行委員長
によるあいさつ

大城就職部長より
感謝の言葉

ブラスバンドサークルによる
歓迎の演奏

学部（領域）毎の交流会・勉強会

看護系

「楽しくなきゃ仕事じゃない！ イキイキ生きていくために」

2つのテーマを挙げ、それぞれ2名の話題提供者からお話しいただきました。参加者からも多くのご質問やアドバイスなどをいただき、有意義な情報交換がなされました。

テーマ1：職場のコミュニケーション（看護師が日頃感じている悩みや上司とのコミュニケーションについて）

テーマ2：
海外で働く

1.保健医療ソーシャルワーカーと佐々木教授を囲む会

2.介護職の未来を語ろう会

3.領域・テーマ別交流・分科会
（障がい、高齢者関係ソーシャルワークほか）

4.自由な交流・分科会

社会福祉系

「みんなで語ろう！ 交流・分科会」

4つのテーマ別の部屋に分かれ、卒業生同士で近況を報告し合い、仕事上の課題や悩み等を共有し、教員も交えて自由な話し合いを行いました。

リハビリテーション系

「3学科合同症例検討会」

「リハビリテーション専門職者が考えるコミュニケーション～PT・OT・STそれぞれの視点から～」というテーマに沿って、臨床経験1～2年の卒業生3名より発表をしていただきました。質疑応答の時間には、参加者から多くのご意見やアドバイスをいただきました。

受付では卒業生実行委員と教職員で卒業生をお迎えしました

ホームカミングデーは、短期大学、専攻科（助産学特別専攻）、ヘルパー学園、専門学校、大学学部・大学院すべての卒業生の皆様に母校に戻り本学の様子を知っていただきたい、同窓生や先輩・後輩と旧交を温め、また教職員と交流していただきたいと考え開催し、今年で5年目になります。今年のホームカミングデーは昨年同様、聖灯祭と同日に開催し、290名の卒業生をお迎えすることができました。

13時から行われたウェルカムセレモニーでは、小島操子学長より歓迎のあいさつ、鈴木聿代ホームカミングデー実行委員長（聖隷学園浜松衛生短期大学2科2期生）のあいさつ、大城昌平就職部長・理学療法学科長より卒業生に対する感謝の言葉が述べられました。在学生ブラスバンドサークルによる「いい日旅立ち」等の演奏で歓迎しました。

続いて、看護系・社会福祉系・リハビリテーション系の学部（領域）毎の交流会・勉強会に移り、多いに語り合いました。

本学は卒業生の皆様に仕事や研究の拠り所として、また保健医療福祉の最新情報の交換拠点として、母校を活用していただくことを願っています。

交流会の最後はパーティーを行いました!!

17時からはオークラアクトシティホテル浜松に会場を移し、パーティーを行いました。幹事年度となる卒業生の実行委員の方々が作成した懐かしい写真を集めたスライドショーの上映などで、会場を盛りたてていただきました。1970年度に聖隷学園浜松衛生短期大学を卒業された方から今年3月に卒業された方までが一堂に集まり、同期生やお世話になった先生と再会し、旧交を温めていました。

本学は9，800名を超える保健医療福祉の専門職者の卒業生の方々に支えられています。実習場での学生への指導や就職支援行事へのご参加、卒業生の就職先での高い評価が学生の採用につながることも多く、また就職先に先輩方がいることが新人の安心感となるなど、様々な場面で後輩を支えていただいています。

Report 2 聖灯祭

実行委員長の青木くん（左）と内山さん（右）

聖灯祭を終えて

聖灯祭実行委員長
リハビリテーション学部 2年次生　青木　駿
看護学部　2年次生　内山晴捺

始めに、聖灯祭にご来場くださいました皆様、そしてご協力いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。そして、課題・実習等忙しいなか、準備を頑張ってくれた実行委員のみなさん、本当にお疲れ様でした。

本年度のテーマ「輪～つながろう～」は、3月の東日本大地震災への世界中の人々からの支援に、国境を越えた「人と人とのつながり」を感じ、また、本学の建学の精神である「隣人愛」の重要性を再認識し考えました。

聖灯祭を通してお互いを思いやる気持ちが育まれ、ひとつのことを成し遂げることで大きな輪ができ、終了後には大きな満足感がありました。今年は、在学生ができる限りの力を出し、最高の大学祭を創ることができたと思います。来年の聖灯祭も後輩達がより良いものに仕上げてくれると信じています。来年もお越しいただければ幸いです。

聖灯祭実行委員会メンバー

2012年もホームカミングデーと聖灯祭は同日開催にて、11月3日（土）に行う予定です。

Pickup 01 健康祭

看護学部は血圧測定や禁煙促進のブース、社会福祉学部は高齢者体験スーツの試着や心理テスト、リハビリテーション学部は体力測定（理学療法学科）や革細工作り体験（作業療法学科）、嚥下食の試食（言語聴覚学科）など、それぞれの学びの特色が生かされたコーナーを設けました。

妊婦体験スーツの試着

朝食奨励のコーナーでは「はまきた食育の会」の皆様にもご協力いただきました

Pickup 02 サークル企画・演奏会

ブラスバンドサークル、琴部、ハンドベルリンガーズによる演奏のほか茶道部によるお茶会や美術サークルの展示会などが行われました。

ブラスバンドサークル：日本高等学校吹奏楽連盟理事長の遠山詠一様に特別に指揮をいただきました

ハンドベル
リンガーズの演奏

Pickup 03 模擬店

サークルや有志の学生による出店のほか、近隣施設の方々によるバザーなど、学内のいたるところで模擬店が開かれました。

模擬店（焼き鳥）

客寄せの姿もユニークです

Pickup 04 その他のイベント紹介

秋のオープンキャンパス
在学生によるキャンパスツアー

毎年恒例の女装コンテストに今年は男装した女子学生もペアで参加。どちらが本物のMiss!?

宝石箱展
高齢者・障がい者の絵画展示と水彩画の体験

初のパフォーマンスを行った演劇部

子育て広場たっくん
たくさんのお子さんが集まってくれました

後夜祭ではビンゴ大会やバンド演奏などで大盛り上がり

2011年度 就職支援速報!!

2011年度の就職状況

昨年度の就職率は全学部100%。2011年度も11月時点で昨年度同様、看護学部のほぼ全員、社会福祉学部も約8割が内定を得、精神領域等の職場を志望する学生が活動をしているところです。秋以降に就職活動が始まるリハビリテーション学部では今年は例年よりも内定が早く、11月時点の内定率が前年と比べ20ポイント上昇しています。特に理学療法学科が早く、静岡県、磐田市、菊川市、藤枝市等の公立病院、聖隷福祉事業団や静岡県内の病院に内定しています。こども教育福祉学科の1期生は、筆記試験対策、ピアノや絵画等の実技試験対策を随時行い、約8割の学生が内定を得、残りの学生も鋭意活動中です。

3年次生の就職活動が始まる

社会福祉学部、看護学部では3年次生の就職支援行事が始まっています。4年次生の内定者による就職活動報告会、卒業生による福祉の仕事報告会、卒業生との懇談会等に参加し、自分の希望分野・領域を考え、就職活動の準備をしていきます。今後就職センターでは、これらの全体の支援行事に加え学生個々の支援も行っていきます。少なくとも2回の面談、履歴書や小論文の添削、個別模擬面接を内定まで随時実施していきます。

キャリアブックレット

保護者のみなさまにご子息、ご令嬢のキャリアや就職活動をご支援いただけるように冊子を作りました。保護者懇談会の場で配布またはご自宅へ郵送をいたしました。

主な就職支援内容

本学の就職支援の主なものは次の通りです。就職支援行事は学部あるいは学科単位で行っています。
職種によって採用試験の時期が異なることから、就職支援行事の時期も異なります。

キャリアガイドブック - 先輩の声 -

1・2年次生に配布している冊子です。卒業生に仕事の内容、魅力、学生の時に学んでほしいことを紙面で語ってもらい、将来のキャリアデザインを描く参考にします。

進路ガイダンス

1年次秋から学年進行にあわせて進路決定まで10数回実施します。1・2年次では社会人として働くこと、保健医療福祉の専門職としての仕事内容、めざす分野・領域等を考える機会とし、3年次以降は具体的に就職活動を支援します。

地域で活躍する専門職による講演会

病院・施設で活躍する専門職の方をお招きし、専門職の仕事内容、やり甲斐、求められる資質についてお話しいただきます。学生の漠然とした専門職像を明確にしていきます。

4年次生の内定者による就職活動報告会

内定が決まった4年次生から、それぞれが体験した具体的な就職活動の話を聞き、3年次生は自分の就職活動の参考とし、準備をしていきます。

卒業生と学生の懇談会

キャリアモデルとして専門領域毎に活躍されている卒業生をお招きし、学生の疑問や不安に直接応えていただいています。

病院・施設説明会

聖隷グループの病院・施設の採用責任者を招いて行う「聖隷関係病院施設説明会」と、地元の主な病院・施設の採用責任者を招いて行う「静岡県・愛知県東部病院施設説明会」を学内にて2日にわけて学部毎に実施しています。学生は病院・施設の概要、運営方針や採用情報について説明を聞きます。

国家試験対策

**今年度の国家試験の日程は左記の通りです。
各学部の国家試験対策委員の先生方に
国家試験対策に関わる支援体制について伺いました。**

▶2011年度国家試験日程一覧

	試験日	合格発表日
看護師	2月19日(日)	3月26日(月)
保健師	2月17日(金)	3月26日(月)
助産師	2月16日(木)	3月26日(月)
社会福祉士	1月29日(日)	3月15日(木)
精神保健福祉士	1月28日(土)・29日(日)	3月15日(木)
理学療法士	2月26日(日)・27日(月)	3月30日(金)
作業療法士	2月26日(日)・27日(月)	3月30日(金)
言語聴覚士	2月18日(土)	3月28日(水)

看護学部

国家試験では、専門職として一定レベルの知識を持って判断できるかが判定されます。そのため看護師国家試験では、80%以上正答しないと合格できない必修問題50問を含んだ計240問が出題されています。また保健師国家試験は計105問ですが、看護師国家試験が合格していないと、保健師国家試験だけ合格しても資格は取得できません。問題内容も以前のような4肢択1だけでなく、5肢択1や5肢2択問題、写真から判断する問題など、正しい知識がないと正答できない出題が増加してきました。

そのため3年次生から国家試験ガイダンスを開始し、各時期に①国家試験関連の情報提供、②国家試験に向けた学習のサポート、③学生との個別相談等を実施しています。

具体的には、3年次生の10月～4年次生の1月まで定期的に学内模試を実施し、4年次には全国規模で国家試験と同問題数が出題される業者模試(看護師5回、保健師4回)を利用して、学生各々が自らの学力を把握しながら国家試験対策に取り組むよう指導しています。また4年次生の10～12月には、正規の授業外に教員が過去の国家試験問題の解説等を行う勉強会を開催し、試験学習で生じた疑問・質問に対して各教員が根拠を踏まえて丁寧に対応する等のサポートを行っています。

国家試験対策の活動主体は、学生一人一人です。合格をめざして学生が主体的に学習に取り組めるように、学生国家試験委員と教員・職員が連携しながら国家試験対策に取り組んでいます。さらに自己学習に不安を感じる学生は、夏期・冬期休暇中に学内施設で開催される外部講師による講習会(希望者有料)も活用しています。

【教員からのアドバイス】

国家試験問題のほとんどは臨地実習と密接に関連しているので、実習を通して専門用語の正しい理解や、看護の判断力を高めていきましょう。また低学年から、日々の講義において分からないことは分からないままにせず主体的に問題解決しましょう。継続的に学習する習慣を身につけて、計画性を持って課題に取り組んでください。最後まで諦めず集中力を保って学習し続けることが、国家試験合格に繋がる確実な道です。

社会福祉学部

3・4年次生を対象に春セメスターオリエンテーション・ガイダンスにおいて国家試験対策に関する説明を行い、学内国家試験対策講座や模擬試験の実施・参考書の閲覧・合格者による講演など情報提供を行っています。また計画的な勉強を支援するために、学生自身による年間計画の作成と計画の実施状況の定期的な確認を行っています。

社会福祉士の受験資格を得るためには実習などの指定された科目の単位を取得しておくことが必要です。おおよそ実習や単位取得を3年次までに終え、4年次から本格的な国家試験対策が始まります。精神保健福祉士も受験するダブル受験対象の学生は4年次にも実習がありますので大変ハードです。国家試験の科目は18科目ありますが、そのうち1つでも正解数が0の科目があれば、他の科目がどんなに高得点であろうと合格はできません。苦手科目のないように勉強していくことが肝心です。

●社会福祉士

春セメスター:4～7月にかけて本学教員による科目別講座を8日間14コマ、非常勤講師による科目別講座を5日間5コマ実施し、7月には学内において模擬試験を実施しました。

秋セメスター:9～12月末にかけて国家試験対策講座(業者主催)を全16日間47コマの日程で開催しています。また9・10・11・1月には学内において模擬試験を実施します。

●精神保健福祉士

社会福祉士と精神保健福祉士は共通科目が多く、精神保健福祉士の専門科目は5科目です。12月より専門科目の受験向け講座を5回程度予定しています。

【教員からのアドバイス】

試験科目は主に3年次生までに受講することになります。科目履修の際によく勉強し理解しておくことが、国家試験勉強の早道になります。4年次生になってあわてて受験勉強に取り組むのではなく、日々の大学での授業を大切にして確実に知識をつけていくことが大切です。今年も7月の模擬試験で合格範囲内の得点を取った学生もいます。その学生たちは多分普段から講義をまじめに受け、その都度受験科目をマスターしていたのでしょう。まずは日々の学びを大切にしてください。そして基礎力を確実に身につけてください。問題集や参考書を色々あたるのではなく、2～3冊を確実に徹底的に理解しつくしてください。

リハビリテーション学部

リハビリテーション学部の国家試験対策は、臨床実習が終了する4年次生の8月から始まります。まずは、各学科で知識を確認するための模擬試験を実施し、成績の芳しくなかった学生に課題を与え、秋セメスターから始まる国家試験対策の基盤づくりを行っています。秋セメスターからは、学科間で情報を交換しながら学科ごとの国家試験対策が始まります。国試対策の勉強が進んでいない学生や小テスト、模擬試験で成績が伸び悩んでいる学生に積極的に関わり、指導を行い、国家試験の合格に必要な学力の向上を図っています。

●理学療法学科

グループ学習と小テストを中心に、国家試験対策講座と模擬試験を実施しています。国家試験対策講座は、集中講座を11月に行い、学科教員による国家試験対策講座は、理学療法能力開発演習で12月に行います。模擬試験は、業者模試を含め10回行います。

●作業療法学科

小テスト、国家試験対策講座と模擬試験を実施しています。国家試験対策講座は、理学療法学科と一緒に集中講座を行い、学科教員による作業療法学総合演習を行います。模擬試験は、業者模試を含めて毎週1回ペースで行います。

●言語聴覚学科

言語聴覚学特別講義Ⅱで基礎学力の向上と学習体制の確立を図り、11月から国家試験対策の特別講義を行っています。模擬試験は、定期的に学内模試を実施し、12月には養成校の全国共通模試が実施されます。

【教員からのアドバイス】

国家試験対策の勉強で重要なことは、『朝御飯を食べ、大学に来て一日みっちり勉強して、家に帰って今日の復習をして、しっかり寝る。』という規則正しい生活習慣を身につけることです。「自宅で勉強しています!」と言っている学生の多くは、模擬試験の成績も悪く、なかなか伸びません。まずは、大学に来てみんなと一緒に勉強しましょう。次に、学生同士で教えあう機会を多く持ちましょう。自分が理解できていないと人に教えることができませんし、教えてみると意外に覚えていることが曖昧だったことに気づくはずです。お互いに支え合い、助け合って国家試験の合格を目指してください。

2011年度 公開講座実施報告

公開セミナー

IPW（専門職連携）に関する講座「災害時の専門職連携～減災に向けて～」

浜松市社会福祉協議会共催　10月8日（土）実施

講師：田村 由美 氏
（滋慶医療科学大学院大学医療管理学研究科 教授）、
キエルト・ドゥイツ氏（ジャーナリスト）

グループワークの様子

地域住民と保健医療福祉の専門職者が災害時にどう連携・協働するかについて、講義とグループワークで学びました。地域の保健医療福祉の専門職者、浜松市社会福祉協議会職員、地域や企業で防災の役割を担う方など97名が参加しました。

本学学生は6名が参加し、難しい課題にも、同じグループの仲間と協力して取り組みました。

講師のドゥイツ氏（左）と
田村先生（右）

市民公開講座

認知症・介護予防に関する講座「認知症介護の最前線」（全2回）

11月19日（土）・12月3日（土）実施

講師：本学社会福祉学部臨床介護福祉学科長　中村裕子教授

第1回では認知症を脳の仕組みから理解する講義、第2回は受講者から提出された介護事例に関するグループワークとポイント解説を行いました。中村教授自身の家族介護体験を交えた解説は大変わかりやすく、参加者は2回の講座を通じて得た学びを家庭や勤務先での介護に活かす糸口をつかんだ様子でした。地域の介護福祉士や看護師の方、ご家庭で家族を介護する一般の方等各回約60名が参加しました。

第2回時のグループワークの様子
右上が講師の中村教授

2011年度地域貢献研究事業費　採択事業一覧

保健福祉実践開発研究センターでは毎年度「地域貢献研究事業費」を配分し、浜松市を中心とした地域の人々を対象にした事業や、病院・施設等と協力した共同研究を支援しています。2009年度の当センター立ち上げ時より開始し、2009年度は9件、2010年度は11件、2011年度は6件の研究・事業を行っています。

研究課題名	研究代表者	職位	共同研究者 《　》内は研究協力者	対象地域
地域性を踏まえた在宅緩和ケアの訪問看護基準の作成	酒井昌子（看護）	教授	佐藤泉、長谷川厚子、天野宏子、増田明美、谷口弥生、井田澄代、水野知絵、中谷純子(訪問看護ステーション浅田、貴布祢、住吉、高丘、細江、三方原)	聖隷福祉事業団、浜松市内の聖隷訪問看護ステーション
コミュニティを基盤とした参加型研究方法(Community-Based Participatory Research: CBPR)を用いたコミュニティ・ニード調査	仲村秀子（看護）	講師	佐久間地区社会福祉協議会、酒井昌子（看護）、鈴木知代（看護）《看護学生3人程度》	浜松市天竜区佐久間地区
発達障害幼児に適応可能な聴力検査と発達レベルとの関係	立石恒雄（リハST）	教授	足立さつき（リハST）、池田泰子（リハST）、石津希代子（リハST）《松本知子・菊池一浩・荻原晴美・上間恵里(浜松市根洗学園)》	浜松市
地域在住高齢者を支えるリハビリサポート体制の構築	金原一宏（リハPT）	助教	大城昌平（リハPT）、水池千尋（リハPT）、根地嶋誠（リハPT）、大杉紘徳(浜松南病院)、合田明生(協立十全病院)	浜松市北区
高次脳機能障害デイサービスの有効性	建木　健（リハOT）	助教	藤田さより(リハOT)、鈴木達也(リハOT)、建木良子、田中裕美(朝山病院)、秋山尚也(浜松市リハビリテーション病院)、片桐伯真(聖隷三方原病院)、滝川八千代・植田しずえ(高次脳機能障害サポートネットしずおか)	浜松市
出張型陶芸クラブの創設	鈴木達也（リハOT）	助教	建木 健（リハOT）、宇佐美好洋(浜松十字の園)、他3名	浜松市

※（　）内は所属を表す。本学教員の場合：看護＝看護学部、リハ＝リハビリテーション学部、PT＝理学療法学科、OT＝作業療法学科、ST＝言語聴覚学科

2010年度 地域貢献研究事業 ポスター発表を行いました

●2010年度に地域貢献研究事業費の配分を受けて実施された共同研究・事業について、11月5日（土）、聖灯祭・ホームカミングデー同日にパネル展示によるポスター発表を行いました。会場は「地域と歩むラウンジ」としてポスター展示と研究事業の一環であるコーヒーショップを併設し、ポスターを見る方、休憩してコーヒーを楽しむ方で賑わいました。

クローズアップ！地域貢献研究事業

保健福祉実践開発研究センター

小羊学園・三方原スクエアにおけるコーヒーショップ活動について

ボランティアの学生たちと入居者の方々との交流。笑顔が絶えません。
本学リハビリテーション学部作業療法学科（専攻）の学生が中心となり、毎回10名以上が参加しています。

11月5日、聖灯祭の日には保健福祉実践開発研究センターが設けた「地域と歩むラウンジ」で「出張コーヒーショップ」を実施。満席の盛況ぶりでした。

こだわりのドリップコーヒーを淹れています。

社会福祉学部　教授
小松 啓

小羊学園・三方原スクエアにおけるコーヒーショップ活動は、2009年10月から保健福祉実践開発研究センターの目的に沿った事業の一つとして開始され、2011年10月で3年目に入った事業です。

その目的としては①利用者や職員との交流を深める、②施設でのさまざまな課題やニーズを把握する、③将来的な共同研究などを行う可能性を探る、などとなっていますが、要するに狙いは、地域に開かれた三方原スクエアの交流スペースで、みんなで楽しくコーヒーショップを開くことからまずは始めましょうということでした。

その結果、2009年10月～2011年12月の現在まで、毎月1回、日曜日午後2～4時まで、本学からは教員5名、リハビリテーション学部作業療法学科（専攻）の学生を中心とした学生ボランティアが毎回10名以上、地域の方など大人のボランティア2名が常時参加してコーヒーショップが開かれました。小羊学園の利用者の参加者数は、毎回平均して35～40名、付き添いの職員が6名ほど、それに三方原スクエアの山崎施設長や出水支援部長、稲松理事長などが随時参加してくださいました。

開店は午後2時ごろ、園内放送で開店が告げられると、職員に付き添われた利用者さんたちが三々五々、やってきます。初期の戸惑いの時期も過ぎて、次第に、「いらっしゃいませ」の声も高らかに、それぞれ好みの飲み物とお菓子を召し上がっていただく手順もスムーズに、回を重ねるにつれて、我々の顔を利用者さんも覚えてくださり、楽しげにいきいきと来店してくださって、このごろでは厨房の方まで、のぞきに見えるほどになったこと、また利用者さんの言葉にならない表現を我々も次第に楽しむことができるようになったことが大きな収穫でした。

特に目覚しかったのは学生たちの力で、めったに微笑んでくださらない若い女性の利用者さんが、ある女子学生の顔を見て、初めてパーッと華のような笑顔を見せてくださるシーンを見たときは、若い力のすごさを思い知らされた気がしました。職員の方からも、利用者さんが居住棟からコーヒーショップにお出かけができるようになったこと、また外からの人間の出入りにより、施設の風通しがよくなったことなどについて高く評価していただきました。そして何より、1ヶ月前からコーヒーショップの開店を楽しみにしていてくださる利用者さんが何人もおられることを聞いたとき、これはぜひとも継続しなければならない事業だとの思いが強くなったのです。

このコーヒーショップはどなたにも開かれたお店です。一度のぞきにお出でくださいませ。

＊当研究事業の詳しい報告は（大学ホームページ＞＞保健福祉実践開発研究センターホームページ＞＞地域貢献研究事業）に掲載しています。

＊小羊学園 三方原スクエア：社会福祉法人小羊学園が設置する知的障害児施設・障害者支援施設。収容保護の色濃い従来の福祉施設から、地域交流を基調にした福祉施設への転換を意識して2008年秋に開設されました。

私の教育・研究

連載 第37回

「自分の教育・研究に思うこと」

看護学部 教授 市江 和子（いちえ かずこ）

◆学歴：名古屋大学大学院医学研究科健康社会医学専攻健康増進医学分野博士課程修了／博士（医学）
◆所属学会：日本看護科学学会、日本小児看護学会、日本看護研究学会、日本家族看護学会、日本看護学教育学会、日本看護診断学会、日本小児保健協会　他

Q1. 先生の専門分野について教えてください。

A. 小児看護に携わり約23年が過ぎようとしています。子どもに関わる看護師になろうと思ったのは看護学生1年生で、18歳のころです。学生時代は、小児病棟でのボランティアとして、入院中の子どもたちと勉強したり遊びを一緒にすることに時間を費やしていました。卒業後は、「小児」を第一希望にしたいと思っていた時、先輩から『最初から小児科に進むと、一般的な看護から遠ざかるので、まずは「成人看護」』と勧められました。現在の自分なら、ありえない思考ですが、第一希望に「成人内科」と記入して希望通りの配属になりました。

その後、看護師として勤務しながら社会福祉系の大学で学び、社会福祉士資格取得のための実習の中で、障害児施設の実践に大感激しました。その際、若かりし頃に目指していた小児看護をやりたいと決意したことが、現在の専門分野に進んだきっかけです。そのため、総合病院を退職し、小児専門病院である神奈川県立こども医療センター小児病院に再就職しました。自分にとって、大転換の時だったと振り返って思い出します。臨床での、子どもの生命力との関わり、小児看護の素晴らしさの体験が今の自分の土台であり活力の源です。

Q2. 大学院ではどのようなことをテーマにしていますか？

A. 家族支援看護学として、専門分野の小児看護学を担当しています。小児看護学領域では、成長・発達を続ける子どもを理解した上でその成長・発達を促し、子どもと家族の健康を増進するための看護援助のあり方を探求することが目的です。

具体的には、子どもと家族に関わる看護上の課題を追求し続けたいと考えています。小児看護CNS（専門看護師）コースでは、質の高い小児看護ケアを提供できる高度専門的かつ倫理的な看護実践能力の修得を目指しています。

11月、大学院看護学研究科小児看護CNSコースにおける講義の様子。

Q3. 現在取り組まれている研究について教えてください。

A. 現在、取り組んでいる研究テーマは「成長障害児と家族への支援」と「重症心身障害児と家族への支援」です。成長障害は、生命の危機に関わる疾患は少ないのですが、長期の療養を必要とします。治療をうけている子どもたちと家族には、低身長によるいじめ、自己注射の継続、思春期の性への悩みおよび先天性疾患という出生時から続く家族の不安や負担の問題があります。心理的なケアが非常に重要となり、社会的支援体制の確立への対策を検討しています。重症心身障害児とは、重度の肢体不自由と重度の知的障害とが重複した状態をいいます。障がいをもち、子どもたちの可能性を信じて一生懸命に実践されている看護を明らかにできればと取り組んでいるところです。施設で、在宅で、治療を継続する子どもと家族への支援について、これからも継続的に関わっていきたいと考えています。

今後も、日々の努力と研鑽を忘れず過ごしてまいりますので、多くの方々からのご指導・ご助言をお願いいたします。

■2011年度科学研究費補助金　採択結果

科学研究費補助金は、人文・社会科学から自然科学までのあらゆる分野で、独創的・先駆的な研究を発展させることを目的とする文部科学省の研究費補助金であり、公募型研究助成制度としては国内で最大規模の制度です。本学でも科学研究費補助金獲得に向けた様々な取り組みをしており、2011年度は継続課題11件の他、新規に12件の研究課題が採択されました。

区分	研究種目	所属	領域等	職位	研究代表者	研究課題
新規	若手（B）	看護学部	基礎看護	助教	炭谷正太郎	新人看護師の血管確保成功率が向上する技術トレーニングプログラム
	若手（B）		成人看護	助教	藤浪千種	手術を受けた高齢の胃がん患者への教育支援プログラムの開発
	基盤（C）		老年看護	准教授	梅本充子	地域在住高齢者における音や匂いを刺激とする新たな手法の回想法の効果
	基盤（C）		母性看護	准教授	黒野智子	妊娠期から継続的に行う父親のための母乳育児支援教育プログラムの開発
	基盤（C）		精神看護	准教授	入江　拓	里親不調による里子との離別を体験した里親のメンタルヘルスとそのケアに関する研究
	基盤（C）			准教授	小平朋江	精神看護学教育のための総合失調症の奮闘記の分析
	基盤（C）		地域看護	教授	酒井昌子	非がん高齢者終末期ケアへの介入タイミングを支持するアセスメンツールの検討
	若手（B）			助教	伊藤純子	難病患者家族の社会的孤立に介入するウェブ交流モデルサイトの開発
	基盤（C）		養護	教授	長峰伸治	思春期・青年期の自閉症スペクトラム障害者の対人交渉スキル支援プログラムの開発
	基盤（C）			助教	高橋佐和子	大学生の大麻等薬物乱用防止教育プログラムの開発
	基盤（C）	社会福祉学部	社会福祉	教授	横尾惠美子	管理職の意識が労働環境に及ぼす影響：介護従事者の離職を防ぐための管理職のあり方：
	基盤（C）			准教授	福田俊子	専門家としての自己生成プログラムにおける「痛みを伴う臨床体験」がもつ意味の探究
継続	基盤（C）	看護学部	基礎看護	准教授	坂田五月	新人看護師の看護専門職業人としてのキャリア発達を促す教育支援プログラムの開発
	基盤（C）			准教授	篠崎惠美子	臨床看護師のフィジカルアセスメントスキルを向上させるバーチャル教材のシステム開発
	若手（B）		成人看護	助教	井上菜穂美	在宅療養中の終末期がん患者の食事摂取に関する看護支援プログラムの作成
	若手（A）		精神看護	准教授	篁　宗一	精神科看護師を介在した児童・思春期のメンタルヘルス教育の開発に関する研究
	基盤（C）		地域看護	講師	山村江美子	在宅がん療養者を自宅で看取る家族を支援する訪問看護実践プログラムの開発
	基盤（C）			助教	岩清水伴美	保育者の認知的スキルを強化する虐待予防・支援技術向上プログラム開発に関する研究
	基盤（C）	リハビリテーション学部	言語聴覚	教授	藤原百合	構音の視覚的フィードバック訓練に用いる人工口蓋床の開発と臨床連携システムの構築
	基盤（C）			講師	足立さつき	発達障害児の家族支援のための育児ポートフォリオ
	基盤（C）			助教	池田泰子	幼児を対象とした発達性読み書き障害児のスクリーニングテストの開発
	基盤（B）	聖隷浜松病院		臨床教授	勝原裕美子	国民と看護のインターフェイスとしての看護指標開発とベンチマークシステムの構築
	基盤（C）	聖隷三方原病院		臨床准教授	山崎律子	「新人」から「一人前」看護師への移行期を支える学習支援システムの構築

■2011年度共同研究費　配分状況

本学では、本学の教育研究水準の向上に貢献するもので個人研究費では行うことのできない研究を専任教員が一人若しくは共同(学外研究者含む)で行う研究計画に対して共同研究費を配分しています。2011年度は、学長奨励研究A（2010年度・2011年度科学研究費補助金等の学外研究助成金に応募して採択からもれた研究）、学長奨励研究B（本学周辺地域の保健医療福祉の向上を目的とし、地域の保健医療福祉の実践現場と共同で行う研究計画）、若手奨励研究（講師・助教、助手が研究代表者になり単独または学内外の若手研究者と共同で行なう研究）、一般研究（新任教員枠を含む）について公募、審査を行い、下記の研究課題に研究費を配分しました。

また5月30～31日に「看護・社会福祉・リハビリテーション合同研究発表会」を本学で開催し、2010年度に共同研究費の配分を受けた全ての研究課題のポスター発表を行いました。

研究種目	所属	領域等	職位	研究代表者	研究課題
学長奨励研究A	看護学部	基礎看護	准教授	佐藤道子	看護師、看護学生、看護教員のほめ言葉に関する研究
			助手	杉浦和子	助産師基礎教育と現任教育へ繋げるための看護倫理教育の検討
		小児看護	准教授	宮谷　恵	看護師の12時間二交代勤務の生活面における有用性の検討
		母性看護	講師	神﨑江利子	ワークショップ技法を用いた助産師による“女性中心の家族計画支援方法”の考案―産後の家族計画の現状と課題―
		精神看護	助教	清水隆裕	精神科急性期病棟における看護師の多訴患者への対応についての研究
		養護	准教授	成松美枝	看護学部における「養護教諭養成課程」の教育課程に関する研究
	助産学専攻科		准教授	富安俊子	青年期男女に対する暴力防止教育モデルの構築
	社会福祉学部	臨床介護福祉	助教	野田由佳里	ケアワークの「やりがい」とは何か・ケアワークの伝承に関する研究―デイサービス事業所への「仕事のやりがい調査」を中心として
	リハビリテーション学部	作業療法	教授	小田原悦子	いわゆる定年退職者におけるリタイアメント・クライシスへの挑戦―橋渡しのために
		教養・専門	教授	顧 寿 智	生体のホメオスタシスによる慢性拒絶反応を抑制する方法の開発
学長奨励研究B	リハビリテーション学部	理学療法	教授	大城昌平	早産児の姿勢管理（ポジショニング）と神経行動発達に関する研究
			助教	金原一宏	認知症予防を目的とした地域在住高齢者の認知機能評価
若手奨励研究	看護学部	地域看護	助教	伊藤純子	地域保健事業に対する住民のクレーム(苦情)に関する研究
	リハビリテーション学部	作業療法	助教	藤田さより	障害者のための就労支援プログラムの開発～就労に中々至らない障害者に焦点をあてて～
一般研究	看護学部	基礎看護	教授	藤井徹也	基礎看護技術演習におけるGID学生受け入れに関する教員の葛藤と対応
			助教	山下照美	看護大学における新任教員研修プログラムの考案
		成人看護	准教授	森本悦子	ゼローダ（カペシタビン）によるHand-Foot-Syndrome（手足症候群）予防のための看護支援プログラムの開発
			助教	藤浪千種	成人急性期実習における学生の経験とその意味　―成人急性期実習における実習指導モデル構築に向けて―
		老年看護	助教	長澤久美子	男性介護者の介護生活上の困難と期待―介護終了後に振り返りを通して―
		母性看護	助教	村松美恵	NICUに入院している児の母親への母乳育児支援―NICUにおける搾乳ケアの実状と看護者の認識―
		精神看護	准教授	篁　宗一	幼児期を対象としたメンタルヘルス教育プログラムの効果評価
		地域看護	教授	酒井昌子	訪問看護師がとらえている家族介護者の健康と健康支援に関する研究
		養護	教授	長峰伸治	大学講義におけるARS(Audience Response System)導入とその効果に関する検討
		教養・専門	教授	鮫島道和	カーボンナノチューブを用いた遠赤外光による治療効果の初期評価
	社会福祉学部	臨床介護福祉	助教	野方　円	補助教材作成支援に関する研究～介護福祉士養成テキストの記述傾向分析～
	リハビリテーション学部	理学療法	教授	西田裕介	Meta Analysisによる癌に伴う倦怠感に対する低強度運動の検討
			助教	根地嶋誠	骨盤非対称性の客観的評価方法の検討―圧力分布とデジタル画像を用いて―
		作業療法	教授	宮前珠子	中国における作業療法の現状と作業療法士養成教育に関する研究
		言語聴覚	教授	藤原百合	小児における発話時の舌と口蓋の接触パターンの検討―エレクトロパラトグラフィ（EPG）を用いて―
			教授	小島千枝子	口腔器官の形態と舌圧の関係および食べ方に及ぼす影響の検討
			教授	原田浩美	聴覚障害児の構文獲得指導―認知機能発達に合わせたスモールステップ法―
			助教	池田泰子	特別支援学級へのコンサルテーションの充実に向けた基礎的調査～アンケート調査を通して特別支援学級担当教諭の「困り感」を検証～
新任教員枠	看護学部	母性看護	助教	窒加千佳	NICU入院児を持つ母親の児への愛着と妊娠・分娩の捉え方
	社会福祉学部	社会福祉	助教	落合克能	介護老人福祉施設のイノベーションプロセスにおける評価尺度の活用状況および有用性に関する調査研究
		こども教育福祉	教授	太田雅子	クリストファーこども園における保育の環境づくりプロジェクト
	リハビリテーション学部	理学療法	准教授	矢倉千昭	若年成人日本人における全身関節弛緩の発生率と関節障害・外傷との関連
		作業療法	准教授	田島明子	生活療法の再評価―精神科作業療法実践者にとって生活療法はどのような意味・意義を持っていたか―

聖隷学園だより

聖隷クリストファー大学附属 クリストファーこども園

クリストファーこども園　総園長
聖隷クリストファー大学　社会福祉学部
こども教育福祉学科長、教授
太田　雅子

こども園での実習について

本年度12月現在までにリハビリテーション学部と看護学部学生の実習が実施されました。リハビリテーション学部は9月初旬に5日間、言語聴覚学専攻の2年次生3名が『保育園実習』を行いました。0歳児クラスではハイハイしている子、つたい歩きやひとり歩行をする子の様子を見て、同年齢でも発達の個人差があることを実感したようです。さらに年齢や個人差に応じた保育者の子どもへの援助の仕方について体験的に学ぶことができたとのことです。看護学部は『小児看護実習』の一部として、10月初旬から中旬にかけて3年次生約95名の学生が半日ずつ実習を行いました。どの学生も子どもたちと関わりながら、発達や健康状態をじっくりと観察し丁寧に記録していました。こども園での実習から健康な小児と患児との異なる部分と共通する部分を理解し、これからの看護や援助を考える機会となったようです。

看護学部『小児看護実習』の様子

新卒者に期待

クリストファーこども園では、3名の新卒者が次年度職員として採用されました。2名は聖隷クリストファー大学社会福祉学部こども教育福祉学科から、1名は聖隷クリストファー高等学校から愛知県立大学へ進学した面々です。そのひとりである鈴木美穂さんは、聖隷クリストファー高等学校、聖隷クリストファー大学で学び、4月よりクリストファーこども園のスタッフとなります。聖隷学園で過ごした7年間の中で得た学びや体験はこども園の保育を支える力となることでしょう。鈴木さんは「慌ただしい日常の中で静まる時間があったことで、また讃美歌を歌い聖書の言葉を聴くことから、自分を見つめ直し新たな人生の課題を見出す時となりました。こども園でも礼拝や食前の祈りをします。落ち着いたひと時は子どもたちにも何が大切なものであるかを感じとらせてくれると思います。」と礼拝の時間がとても貴重であったと話しています。就職後は大学での、特にソーシャルワークの学びを保護者の子育て支援や育児不安への相談に活かしていきたいと語っています。

内定者の鈴木美穂さん

こども園 HOT NEWS

第1回プレイデーの開催

10月15日（土）、第1回プレイデーが開催されました。あいにくの雨のため、会場を園庭からホールへと変更。3歳以上児クラスと3歳未満児クラスの2部構成にし、時間をずらして実施しました。やや手狭ではありましたが、子どもたちは日頃の遊びを発展・変化させた種目の中で自分らしさを発揮することができました。特に3歳以上は「マイスペシャリティ」という種目の中でそれぞれが得意とすること、たとえば大縄跳び、三輪車漕ぎなどを披露しました。自信に満ちた表情やチャレンジする姿から子どもたち一人ひとりの成長を見ることができました。綱引きなど保護者が参加するプログラムでは皆が大いに盛り上がりました。3歳未満の子どもたちはご家族の方との触れ合いを楽しみました。幼いなりにも一生懸命歩いたり、踊ったりする姿に集った人々の顔には微笑みが浮かんでいました。保護者の方は自分の子どもの番以外にも声援をおくり、会場が一体となった感じを受けました。「共に成長を喜び合う」ことを目指すこども園らしいプレイデーであったと思います。

収穫感謝礼拝を行いました

11月22日（火）、それぞれの家庭から果物や野菜を持ち寄り、収穫感謝礼拝を持ちました。礼拝後、赤ちゃんたちも含めて全園児が、聖隷クリストファー中・高等学校、大学、近隣の施設や日頃お世話になっている方々のところへ果物を届けに行きました。アドナイ館では、入居者の方がご自分で制作した紙芝居（聖書の物語）を子どもたちに読んで聞かせてくださいました。神様からのさまざまな恵みを感謝し分かち合う時となりました。

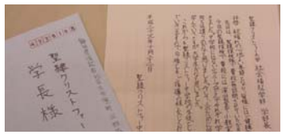
アドナイ館では紙芝居の読み聞かせをしていただきました

聖隷クリストファー 中・高等 学校

中学1年生徒が「聖隷探検隊」を行いました

10月14日（金）、中学1年生徒は聖隷クリストファー大学をはじめ、聖隷の医療・福祉関連施設（22箇所）を3名の班で2箇所ずつ訪問し、各施設の事業内容や歴史について学んできました。事前にパソコンで各施設について調べ、質問事項をまとめ、そして当日のアポイントメントをとりました。訪問前日は緊張していた生徒もいましたが、トラブルもなく順調に訪問を終えました。訪問後は礼状を書き、学んだ内容を各班で模造紙大にまとめ、後日の学習発表会を通して情報を共有します。今回の体験を通して得たものが、今後の人間探求（労作）の授業の中で生かされることでしょう。

ご協力いただいた聖隷グループの各施設の皆様に厚く御礼を申し上げます。



訪問先には後日、お礼状を送りました

大学を訪問した生徒と社会福祉学部長の佐々木敏明教授

▶訪問した聖隷の関連施設

聖隷クリストファー大学
総合病院 聖隷浜松病院
総合病院 聖隷三方原病院
遠州栄光教会 住吉礼拝堂
遠州栄光教会 三方原礼拝堂
わかば保育園
浜松十字の園
聖隷厚生園 譜栄寮
浜名湖エデンの園
小羊学園　三方原スクエア
小羊デイケアホーム
聖隷おおぞら療育センター
聖隷厚生園 信生寮
浜北愛光園
聖隷厚生園 ナルド工房
三方原ベテルホーム
和合愛光園
引佐愛光園
浜松ゆうゆうの里
聖隷予防検診センター
聖隷福祉事業団 法人本部
小羊学園 マルカート

聖隷プロジェクト ～高大連携～について

聖隷プロジェクト委員会　委員長　竹本 義惠

聖隷クリストファー大学と本校との連携の一環として、看護・リハビリ・福祉・こどもに関心のある1、2年生に対して、毎月一回、大学の先生に講義をしていただいています。高校の授業では学ぶことのできない専門的な知識を、わかりやすく説明していただき、毎回が発見の場となっています。

今年度は、この聖隷Pクラスが始まって7年目です。聖隷Pクラスを受講した最初の生徒たちが大学に進学し、いよいよ社会に出て働こうとしています。先日その一人である聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻4年次生の中根佑未子さんが聖隷Pクラスでお話をしてくださいました。その中で、中根さんはこのクラスで学んで良かった点として、「早いうちから進路について考えるヒントができたこと。」「それぞれの専門について、イメージだけでなく正しい知識が得られたこと。」「自分が目指そうとしていた学科以外の学科についても知ることができたこと。」などを挙げてくださいました。聖隷Pクラスで学んだ生徒たちがどのような活躍をするのか、楽しみです。

聖隷プロジェクト：大学で行った講義の様子

聖隷クリストファー高等学校

男子バレーボール部　春高バレー出場決定！

第64回全日本バレーボール高等学校選手権大会静岡県予選大会 優勝

11月20日、草薙総合運動場体育館にて行われた第64回全日本バレーボール高等学校選手権大会静岡県予選大会決勝で清水商業高校に勝利し、1月5日から東京で開催される春高バレーへ静岡県代表として出場します。高校バレーボールの頂点が決まる春高バレー。高校3年生は高校時代最後の大舞台です。ベスト8を目標にチーム一丸となって臨みます。ご注目、ご声援よろしくお願いいたします。

聖隷学園　法人事務局

新5号館の新築工事が1月から始まります

キャンパスの北側にある第一体育館の解体工事が8月から進められており、年内には完了する見通しです。跡地には教育・研究環境のさらなる充実を目指して、7階建の校舎を新築します。

現在の聖隷歴史資料館は新校舎の1階に、図書館は2・3階に移設し、それぞれ新しいコンセプトを取り入れた施設に生まれ変わります。4～6階には学部および大学院の教室、研究スペースを移設、増設するほか、7階に教員の研究室を配置します。また、これまでの歴史資料館や図書館のスペースは学生ホールや実習室等へと改修を行いますので、学生生活がより充実したものになることが期待されます。

新校舎は来年12月に竣工予定です。学生の皆様には引き続きご不便をおかけしますが、安全には十分注意して工事を進めていきますので、ご理解・ご協力をお願い申し上げます。

新5号館予定図（右）と遠州栄光教会（左）

解体工事中の第一体育館（2011年11月撮影）

お知らせ
保護者のみなさまへ

今年度の卒業式・卒業パーティは3月13日（火）に行います

「2011年度卒業式・修了式」はアクトシティ浜松中ホールにて、「卒業パーティ」はグランドホテル浜松にて、3月13日（火）に行います。卒業生・修了生の保護者の皆様には追ってご案内状をお送りいたします。たくさんの保護者の皆様のご出席をお待ちしております。

緊急メール（夜間・休日の大学への緊急連絡用）

メールアドレス　kinkyu@seirei.ac.jp

こんな時はすぐにメールをしてください。

1. 事故・火災・自然災害に巻き込まれ関係者の中に死亡・重体等深刻な事態が生じた場合
2. 重大な事件を引き起こした又は巻き込まれた場合

【連絡をしてほしい内容】
学籍番号・氏名・電話番号・事件事故の概要（5W1H）を簡潔に。

大地震発生時の安否情報入力

URL　http://bousai.seirei.ac.jp

大地震が発生した時、大学は在学生皆さんの安否を心配しています。浜松市北部（長期休業中は帰省先等）で、震度6以上の地震が発生した時は、できるだけ早く上記サイトにアクセスし安否情報を入力してください。

皆さんからの「いいね！」をお待ちしています。

facebookページを開設しました!!

URL　http://www.facebook.com/seirei.christopher.university

聖隷クリストファー大学では、facebookページを開設し、学生生活の様子を写真やキャンパスブログなどを通してお伝えしています。

クリスマスツリーが飾られました！

11月24日（木）、今年も大学に巨大ツリーが飾りつけられました。有志の学生たちによってツリーの装飾が行われ、ひとつひとつ丁寧に作られたクランツ（リース）は学内のあちらこちらに飾られています。本学でのクリスマス礼拝は12月21日（水）に行います。

新任教員紹介

2011年10月1日就任

リハビリテーション学部
言語聴覚学科
佐藤（さとう） 順子（じゅんこ） 教授

●出身校
大阪教育大学特殊教育特別専攻科
言語障害教育専攻、名古屋市立大学
大学院医学研究科博士（医学）取得

●前勤務先
名古屋市立大学病院
こころの医療センター・神経内科
資生会 八事病院 精神科

●専門分野
高次脳機能障害学、認知症

学生へのメッセージ

いつでも患者様の良き理解者となり、障害だけに焦点をあてるのではなく、広い視野で柔軟に援助ができ、他職種の人と協働できる言語聴覚士になってもらいたいと思います。

ACCESS!!

学報へのご意見・ご感想をお寄せください。
読者の皆様のご意見を参考に、
より充実した内容をお届けできればと
考えております。ご協力お願い申し上げます。

学報アンケート
http://blg.seirei.ac.jp/d/

著書紹介

『グループ回想法マニュアル』

すびか書房　2011年8月
著者：看護学部　准教授　梅本（うめもと） 充子（みつこ）

いよいよ高齢化の波が押し寄せてきました。認知症の増加も避けられないなか、回想法は認知症に対する非薬物療法や予防的な効果を目的として広く関心を集めています。特に介護予防への取り組みとして実績を重ね、さまざまな面で成果が明らかになる一方で、実践家の養成や普及が今後の課題になっています。本書の特徴は、実践手法に重点を置き、アクティビティ(レクリエーション)としての回想法、回想法の多彩なあり方を紹介するようにしたことです。回想法を実施後、自主グループ活動につなげ、グループ間の交流、世代間交流、生涯学習につなげるなど、地域での社会参加をめざした展開の実際も紹介しました。回想法の社会的な普及をめざして、だれにでもわかるやさしい本にすることを心がけました。特に、介護や看護、福祉の実践家の方々に役立てていただきたいと願っています。

災害時対策としての施設・設備整備計画について

3月11日に発生した東日本大震災は日本全体に未曾有の社会的・経済的打撃を与えました。
静岡県においても、マグニチュード8クラスの地震による甚大な被害が懸念されています。
東日本大震災の教訓から、大規模災害が発生した場合、多くの学生の帰宅が困難になると想定されますので、
校舎を一時的な滞在場所として使用できるよう、これまで以上に緊急時のライフラインの整備を進めることとなりました。
災害時の水の確保については、大学にある井戸を活用し、飲料水やトイレ用水として使用できるよう必要な工事を行います。
また、停電時のトイレ利用、照明確保の対策として発電機の購入や配線工事を行います。
食糧については、非常食の備蓄の他、学生食堂の米の在庫などを計画的に保持する計画です。

聖隷クリストファー大学後援会

2011年度 保護者懇談会

本学では保護者と大学とのコミュニケーションを図る機会として保護者懇談会を開催しています。普段は訪れる機会の無い大学へ足を運んでいただき、直接教員の話を聞いていただき、学生たちの学んでいる環境を見ていただく中で保護者の方々の抱える疑問や悩みを少しでも軽減できればと考えています。ご参加いただいた保護者の皆様にはアンケートにお答えいただき、ご意見やご要望を伺い、翌年度の保護者懇談会にできるだけ反映させ、より有意義な会になるよう努めています。

プログラム

懇談会
（学科全体、学年別・専攻別）
昼　食
個別相談・校舎（実習室等）見学

※懇談会の形式や見学でご案内する実習室は学部ごとで異なります。

■今年度の開催状況

学　部	開催日	参加者数	
社会福祉学部	2011年 7月 9日（土）	社会福祉学科（専攻）	37組 46名
		介護福祉学科（専攻）	21組 28名
		こども教育福祉学科	44組 52名
リハビリテーション学部	2011年10月15日（土）	理学療法学科（専攻）	55組 70名
		作業療法学科（専攻）	57組 75名
		言語聴覚学科（専攻）	24組 29名
看護学部	2011年10月29日（土）	看護学科	165組203名

学科（専攻）・学年別の懇談会（社会福祉学部）

教員紹介（リハビリテーション学部）

実習室の見学（看護学部）

学生ホールでの昼食

■2012年度保護者懇談会日程［予定］

学　部	日　時
社会福祉学部	2012年 7月14日（土）
リハビリテーション学部	2012年10月13日（土）
看護学部	2012年10月27日（土）

詳細が決まり次第、ご案内状をお送りいたします。
この機会にぜひご来学ください。

今年も大変多くの方にご参加いただきました。ありがとうございました。

聖隷クリストファー大学
学報 Vol.38
2011年12月20日発行

Christopher NEWS!

01 海外研修・海外実習を実施しました

【シンガポール研修】

2011年9月3～10日に実施し、看護学部5名、リハビリテーション学部理学療法学科（専攻）3名、同学部作業療法学科（専攻）7名の計15名の学生が参加しました。出発日である3日に台風12号が四国・中国地方に上陸した影響で、予定より7時間以上も中部国際空港で待たされるというハプニングがありましたが、参加者はこれもまた一つの経験として落ち着いて受け止めていました。シンガポールでは、本学交流協定締結校であるナンヤン理工学院（NYP）学生宅でのホームステイ、NYP式授業・演習への参加、医療福祉施設の見学、そして自由時間はNYPの学生達との観光や買物など、学生達は終日忙しいスケジュールを精力的にこなしました。

【国際看護実習】

選考された看護学部4年次生2名が、ナンヤン理工学院（NYP）を受入れ教育機関として、NYP実習指導者のもとシンガポール国内の医療福祉施設等で2週間の看護実習（シャドーイング）を行いました。国際的視野を持って看護実習を行うことができるよう、事前学習としてシンガポールの人々の健康と保健・医療の現状について理解を深め、また、渡航までに延べ20時間の特別英語講習を受講し、特に医療英語について重点的に学習することで英語による実習指導に備えました。実習最終日にはNYP教員を前に実習成果を報告しました。

実習中のNYP看護学生達と（左2名が本学学生）

※シンガポール研修および国際看護実習は日本学生支援機構平成23年度留学生交流支援制度採択プログラムです。参加者1人あたり8万円の奨学金が給付されました。

見学先の高齢者福祉施設前で

障がいがある人用に開発された補助具の説明に聞き入る学生達

02 聖隷クリストファー大学同窓会 記念講演会「命を支える看護・福祉・リハビリ」を開催しました

聖隷学園浜松衛生短期大学、聖隷学園浜松衛生短期大学専攻科助産学特別専攻、福祉医療ヘルパー学園、聖隷介護福祉専門学校、聖隷クリストファー看護大学の各同窓会が聖隷クリストファー大学同窓会としてひとつの同窓会となり10年が経ちました。これを記念し、同窓会会員の教養を高め、卒業後保健医療福祉の専門職としての確立を図ることの一助として10月1日（土）、諏訪中央病院名誉院長の鎌田實氏をお招きし、大学および同窓会の共催による記念講演会「命を支える看護・福祉・リハビリ」が行われました。当日は同窓会会員のほか、保健医療福祉の専門職者をはじめとする一般の方など439名が参加しました。

参加者は、医師の傍らイラクや旧ソ連のチェルノブイリでの救援活動や東日本大震災の被災地支援などに取り組まれる鎌田氏のお話に熱心に耳を傾けていました。

講師の鎌田實先生
講演後にはサイン会も行われました

学友会 GAKUYUKAI

学友会主催の球技大会を開催しました

学友会会長 勝又 優太（看護学部2年次生）

10月29日（土）、学友会行事の一つである球技大会（ドッヂボール）が行われました。学生それぞれが、チームのため、賞品のために全力でボールを投げ合いました。普段は、講義や実習で忙しい学生にとって、最高の息抜きとなったのではないでしょうか。今回の行事でより一層学生間の絆が深まったことと思います。

男子の部優勝：PanTS

女子の部優勝：シュウマイ's

発行者 聖隷クリストファー大学
看護学部／リハビリテーション学部／社会福祉学部／助産学専攻科
大学院「博士前期課程」「博士後期課程」看護学研究科／リハビリテーション科学研究科／社会福祉学研究科
〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町3453 TEL053-439-1400 FAX053-439-1406 http://www.seirei.ac.jp

PRINTED WITH SOYINK™
環境にやさしい大豆油インクを使用しています。